

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「つたえたいことをはっきりさせて、ほうこくする文章を書こう」 教材名「仕事のくふう、見つけたよ / 【コラム】符号など」

2 単元の目標

改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。（〔知識及び技能〕(1)ウ）

相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）	①「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）	①調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する。この教材では、工夫の材料分類表と報告文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

資料名や聞いた相手、確認した内容を記録する。未確認の働きや効果は断定せず、再確認の欄へ移す。想定する難しさは、集めた情報をすべて写し、工夫の意味を説明しない。評価では、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしているかを、工夫の材料分類表と報告文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～5	○学校で利用できる資料や聞き取りから集めた材料を、仕事・工夫・目的に分類する。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）
第3次	6～9 （本時）	○学校で利用できる資料や聞き取りから集めた材料を、仕事・工夫・目的に分類する。中心にする工夫を選び、事例と理由を対応させて段落を組む。引用と自分の説明を区別し、句読点も確認する。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	10	○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (6/10)

(1) 本時の目標

相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「この工夫を伝えるには、どの事実と理由が必要ですか」 【めあて】調べた仕事の工夫から伝える中心を選び、事実と理由を対応させて報告する。 〈予想される児童の反応〉 ・ 同じ仕事でも工夫の目的が違う。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この工夫を伝えるには、どの事実と理由が必要ですか」 学校で利用できる資料や聞き取りから集めた材料を、仕事・工夫・目的に分類する。中心にする工夫を選び、事例と理由を対応させて段落を組む。引用と自分の説明を区別し、句読点も確認する。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・ 同じ仕事でも工夫の目的が違う。 ・ 自分の予想を調べた事実と分けたい。	資料名や聞いた相手、確認した内容を記録する。未確認の働きや効果は断定せず、再確認の欄へ移す。 想定する難しさ：集めた情報をすべて写し、工夫の意味を説明しない。 評価では、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしているかを、工夫の材料分類表と報告文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。 (発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 工夫の材料分類表と報告文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ 自分の予想を調べた事実と分けたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この工夫を伝えるには、どの事実と理由が必要ですか」。中央は、工夫の材料分類表と報告文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

